

健康で安全な学校を構築するための教員の資質に関する基礎研究

A study about the skills and ability of the teacher for building the safety and healthy schools

物部博文（保健体育講座）、有元典文（学校教育講座）

菊地美和子、高松真砂子、平田綾子、吉田阿佐美、池田寛奈、平沼裕子
（五附属養護教諭部会）

郡司菜津美（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）

Abstract

The objective of this study was to create standards for basic knowledge pertaining to health and safety necessary for teaching staff, as well as to investigate learning of health and safety issues in teacher training colleges.

We created health and safety standards (for general teaching) based on standards for Yogo - teachers, in the following categories: basic training in health and safety (7 items), plans for health and safety in schools (2 items), management of physical and psychological health (6 items), hygiene management/management of school environment (3 items), health guidance (2 items), learning about health (3 items), public awareness activities (1 item), health consultations (6 items), knowledge of the school infirmary (1 item), understanding of health organization activities (1 item).

Moreover, the results of the questionnaire conducted among students indicated that "health inspections", "implementation of classes including those on health education", "respect for of children's lives in the entire school, and consideration of the health of teachers are easy to understand for students", while "individual guidance including group guidance", "faculty health committees", "child/student health committees", etc., "school health planning", "school safety planning", "prevention of infectious diseases/food poisoning", "environmental hygiene inspections at school", and so on were difficult to understand for them.

The above suggests that there is need for further investigation of studying health and safety at teacher training colleges and how to motivate students.

I. 緒言

学校は、児童・生徒の生活習慣の乱れ、心の健康、アレルギー疾患、性、薬物乱用、感染症など、社会的な変化を背景にしたさまざまな健康課題を抱えている¹⁾。また、犯罪や事故、自然災害などの学校を取り巻く安全は、社会的な関心を集めている²⁾。

児童・生徒の健康を保持増進するためには、学校や学校を取り巻く環境が健康で安全な環境であるとともに、学校に関わる教職員をはじめ保護者や地域住民が学校の健康や安全に関与するような取り組みが重

要である³⁾。すなわち、校長、保健主事、養護教諭、栄養教諭、一般教諭をはじめとする、すべての学校教職員さらには、児童・生徒が学校保健や学校安全に参画し、保護者および地域住民、諸機関との有機的な連携を構築しながら学校に生じる諸課題の予防と解決に結びつけたい。

しかし、教員のスキルや資質に関する研究に視点を当ててみると、教師の資質を構成する要因に関する研究^{4, 5)}、児童・生徒指導に関する研究⁶⁾、教科の授業実践に関する資質・能力に関する研究⁷⁻¹²⁾が多く、保健や安全に関する要因について取り上げた研究については、保健学習に関する研究¹³⁻¹⁷⁾を除くと比較的少ない^{18, 19)}。

また、教員養成段階におけるカリキュラムに視点をあてると、近年、学校保健学会による意見提出が認められるものの²⁰⁾、学校の健康や安全について取り扱う科目は割り当てられていないのが現状である。従って、教育実習や教育実習の事前指導などで学ぶ以外は、児童・生徒の健康や安全に関する事項にふれる機会自体が少ないと考えられる。

以上のような状況を鑑み、本研究では、健康的で安全な学校を構築するひとつの要因として、一般教諭に求められる保健および安全に関する素養について検討し、教員養成のための基礎的な資料とすることを目的とした。

Ⅱ. 研究1 一般教諭における保健および安全に関する素養の抽出

1. 目的

本研究の目的は、一般教諭における保健および安全に必要とされる資質についての抽出である。そのために、まず健康および安全の専門家である養護教育論のための保健室スタンダードを作成し、その後、それと対になるように一般教諭のための保健・安全スタンダードを作成するプロセスをとった。なぜなら、学校の健康および安全は、少数の専門家のみ、あるいは教員のみで構築できるわけではなく、校長、保健主事、養護教諭、栄養教諭、一般教諭をはじめ、すべての学校教職員が参画・実施して成し遂げられると考えたからである。特に、一般教諭は、学校の教職員の多数を占めるとともに、保健主事、安全担当や管理職（校長や副校長・教頭）などの健康および安全にとって重要な役割を担当する可能性が高い。したがって、保健および安全に対して専門性の高い養護教諭の視点で項目を作成し、一般の教員に必要な素養を養護教諭と共通のプラットフォームとして構築することで、職種の異なる教職員がスタンダードを手がかりとしながらコミュニケーションを図ってほしいという意図がある。

なお、ここでいう一般教諭とは、小学校教諭免許状、中学校教諭免許状および高等学校教諭免許状における保健および保健体育以外の免許状を取得する者である。すなわち、小学校教諭、中学校および高等学校における保健体育以外の教科担当を想定している。

2. 方法

1) 文献検索による養護教諭の執務および職務に関する文献検索

文献検索システム：サイニー（CiNii）を用いてキーワードを「養護教諭」、「職務」または「執務」と設定して文献を検索した。これらの文献²¹⁻²⁵⁾、及び学校保健安全法²⁶⁾に記載された内容から項目を抽出し、第一筆者が保健室（養護教諭）スタンダード0次案を作成した。

2) 教員養成系大学養護教諭部会における項目の検討

教員養成系A大学教育人間科学部附属養護教諭部会（以下、附属養護教諭部会）において、保健室（養護教諭）スタンダード0次案を提示し、5名の養護教諭に意見を求めた。すなわち、保健室（養護教諭）スタンダード0次案をもとに、附属養護教諭部会の5名の養護教諭に対して、「養護教諭として必要な素養」を念頭におきながら保健室（養護教諭）スタンダード項目を「非常に重要」から「まったく重要でな

い」の4件法で回答させた。それらの回答を資料とし、一項目ずつディスカッションしながら文言を修正し、項目として抽出した。以上のようなプロセスを経て保健室（養護教諭）スタンダード1次案（職務項目）を作成した。

3) 養護教諭の素養に関するワークショップ

附属養護教諭部会において、養護教諭5名、ファシリテーターとして大学教員2名、大学院博士課程学生1名が参加し、「養護教諭としての基本的な素養（ふだんの心がけや用意）は何かというテーマでグループワークを実施した。「養護教諭の日々の実践の中で重要なふだんの心がけ」というテーマでブレインストーミングをし、得られた文言をKJ法によって分類した。不一致の箇所は合議にて解決した。最後に、意見を分類・整理した過程がわかるように図式化した。以上のようなプロセスを経て保健室（養護教諭）スタンダード1次案（養護項目）とした。

4) 養護教諭スタンダードの一般教員の素養への書き換え

2)で作成した職務に関する項目に3)の養護教諭としての素養を加えて保健室（養護教諭）スタンダード1次案とした。次にその1次案をたたき台として、附属養護教諭部会の5名の養護教諭に対して、「一般教諭として必要な保健・安全の素養」を念頭において、それぞれの項目を「非常に重要」から「まったく重要でない」の4件法で回答させ、1項目ずつ文言を検討した。以上のようなプロセスを経て保健・安全（一般教諭）スタンダード暫定版を作成した。

3. 結果と考察

保健・安全（一般教諭）スタンダード暫定版の項目を表1に示した。

2012年9月の附属養護教諭部会にて0次案を提示し、5名の養護教諭に意見を求めたところ、2012年10月の附属養護教諭部会では項目ごとの文言の修正とともに「項目としては変わらないが、保健室の職務状況に沿った順序構成にしてほしい」という意見と、参考となる2資料^{27, 28)}が提示された。この2資料はともに学校保健安全法の項目に沿って内容が構成されており、項目についてはほぼ等しかったので、提示された文献を参考に項目の順番と文言を修正した。具体的には、0次案中での古い表記、例えば、「伝染病」を「感染症」に書きかえる等の作業を行った。

また、保健室（養護教諭）スタンダード1次案から保健・安全（一般教諭）スタンダード暫定版を作成する過程では、項目ごとに養護教諭の日常的な職務状況からの意見が寄せられた。すなわち、「一般教員もこのような項目については、理解し、実際に実施して欲しい。」「一般教員は、この内容に関しては、養護教諭が実施していることを認識してもらって良い。」などの意見にもとづいて文言を加筆・修正していった。

このスタンダードは、保健・安全に関連する基本的な素養7項目、学校保健計画及び学校安全計画2項目、保健管理・心身の健康管理6項目、保健管理・学校環境の管理3項目、保健指導2項目、保健学習3項目、啓発活動1項目、健康相談6項目、保健室の理解1項目、保健組織活動の理解1項目で構成される。

Ⅲ. 研究2 教員養成課程の学生における保健および安全に関する調査研究

1. 目的

本研究の目的は、教員養成系学部に入學直後の大学生が、研究1で作成した保健・安全（一般教諭）スタンダードに対してどの項目がイメージしやすく、どの項目がイメージしにくいのかを明らかにすることである。なお、イメージのしやすさとは、具体的な場面を想定可能であることを意味する。

2. 方 法

1) 対 象

関東の国立大学法人の教員養成課程に所属する大学1年生 227名。

2) 調査日時

2013年4月19日

3) 調査方法および内容

自記式質問用紙を用いた集合調査法により実施した。

調査内容は、研究1で作成した保健・安全（一般教諭）スタンダード暫定版に関する31項目に対して、まったくイメージできない（1点）から十分にイメージできる（4点）の4件法で回答させた。

4) 倫理的配慮

授業前に調査の趣旨を説明するとともに、個人の情報が流出したり、それによって迷惑がかかったりする事はない旨を説明し、調査協力を得た。また、本調査が授業の成績とは無関係であることを口頭で伝えた。

5) 分析・統計処理

統計処理は、統計ソフト HALBAU for Windows を用いて分析した。まず、質問項目ごとに度数分布を求め、「十分にイメージできる」と回答する傾向のある項目、「まったくイメージできない」と回答する傾向のある項目を抽出した。次にバリマックス回転による探索的な因子分析を実施した。

3. 結果と考察

保健・安全（一般教諭）スタンダードの項目ごとの回答の度数分布を**表2**に示した。

「十分にイメージできる」に対する回答割合の高い項目は、上から順に健康観察（41.7%）、道徳への授業参加（35.0%）、全校児童生徒の生命尊重（33.3%）、保健学習（32.1%）、教師自身の健康への配慮（29.8%）であった。

その一方で、「まったくイメージできない」に対する回答割合の高い項目は、グループ指導を含む個別指導（5.8%）、「教職員保健委員会、PTA 保健委員会、児童・生徒保健委員会、学校保健委員会等」（4.9%）、学校保健計画（4.5%）、学校安全計画（3.6%）、感染症・食中毒予防（3.1%）、学校環境衛生検査（3.1%）であった。

探索的因子分析をした結果の因子得点表を**表3**に示した。第1因子としては、児童・生徒の心身の課題発見と対処に関する因子（因子寄与率 9.89）、第2因子としては、学校安全・保健計画に関する因子（因子寄与率 6.82）、第3因子としては、授業に関する因子（因子寄与率 6.52）、第4因子としては、学校環境衛生に関する因子（因子寄与率 5.75）、第5因子としては、保健指導に関する因子（因子寄与率 3.81）であった。

表1 保健・安全（一般教諭）スタンダード（仮称）暫定版評価項目

	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
1. 健康・安全に対する基本的な素養				
【心身の健康への自律的態度】 教師自身の心身の健康に留意し、衛生的な身だしなみや健康的な生活を心がけている。	1	2	3	4
【人権尊重・公平な態度】 全校の（児童）生徒の体・心・命を尊重し、公平な態度と丁寧な言動で指導・支援する。	1	2	3	4
【寛容性と慎重な判断・取組め】 断利的な態度で（児童）生徒のありのままを受けとめ、心身の状態を真摯める。また、（児童）生徒の心理精神的・発達的・家庭的な背景を適切に判断する。	1	2	3	4
【健康な教室環境づくり】 安心安全を象徴した明るく清潔で安全、機能的な教室づくりをめざし、色彩や配置に留意して教室を整備し、環境を整える。	1	2	3	4
【執務の心構え】 災害・事件・事故等の緊急時を予想して、事前に準備し、ゆとりを持って日々の実践活動を行う。	1	2	3	4
【情報の共有と連携】 共通の守秘義務を前提に、学級担任、学年・部活・生徒指導等の担当教員、養護教諭、スクールカウンセラー、管理職と情報を共有する。根拠の目で検討して、適切な判断や支援・指導を行う。	1	2	3	4
【俯瞰的・総合的な視点】 個々の（児童）生徒や教職員、学級・学年、学校全体の健康安全の状況、学校教育目標、教育課程を把握して、情報を共有する。	1	2	3	4
2. 学校保健計画及び学校安全計画	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
学校保健計画を理解し、学校保健計画を実施している	1	2	3	4
学校安全計画を理解し、学校安全計画を実施している	1	2	3	4
3. 保健管理				
3. 1. 心身の健康管理	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
緊急体制を理解し、緊急対応及び緊急時の対応について適切に対応し、保認につなげる。	1	2	3	4
健康診断について意義と内容を理解している	1	2	3	4
健康観察（欠席、遅刻、早退の把握を含む学習活動中）を実施している	1	2	3	4
学校および学級等の保健情報、保健室利用状況等を把握し、活用している	1	2	3	4
感染症・食中毒を予防するとともに、発症時には適切に対応できるようにしている	1	2	3	4
疾病及び障がいのある（児童）生徒、経過観察を必要とする（児童）生徒の健康状況を把握している	1	2	3	4

	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
3. 2. 学校環境の管理				
学校環境衛生の日常的な点検（換気、程光調整等の職員が日常的に実施するもの）を実施している	1	2	3	4
学校環境衛生検査（定期検査、随時検査）を理解している	1	2	3	4
施設設備の安全点検に参画するとともに、安全点検を実施している	1	2	3	4
4. 保健教育				
4. 1. 保健指導	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
グループ指導を含む個別指導を実施している	1	2	3	4
学級活動、学校行事、児童生徒会活動における保健指導を実施し、協働的かつ協同しながら実施している	1	2	3	4
4. 2. 保健学習	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
保健学習を実施している（小）	1	2	3	4
「総合的な学習の時間」における保健学習に参画し、実践している	1	2	3	4
道徳の授業へ参画し、実践している	1	2	3	4
4. 3. 啓発活動	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
健康に関する児童生徒、教職員、保護者、地域住民及び関係機関等への啓発活動を実施し、協力している	1	2	3	4
5. 健康相談	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
（児童）生徒の心身の健康に関する変化を早期発見し、声をかける。アドバイスする等の健康相談活動を実施したり、保健室と連携したりする	1	2	3	4
生徒の心身の健康問題を早期発見し、早期対応している	1	2	3	4
心身の健康問題のある生徒に対して支援計画を作成し、養護教諭やスクールカウンセラーと連携しながら実施し、評価し、改善している	1	2	3	4
いじめ、虐待、事件事故・災害時等における心のケアを実施している	1	2	3	4
（児童）生徒の支援にあたって教職員、保護者及び養護教諭をはじめとする校内組織、学校医をはじめとする校外組織と連携している	1	2	3	4
6. 保健室の理解	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
保健室の機能や役割を理解し、協力・活用する	1	2	3	4
7. 保健組織活動の理解	たいへんよい (very good)	よい (good)	おおむねよい (sufficient)	不十分 (insufficient)
教職員保健委員会、PTA保健委員会、児童生徒保健委員、学校保健委員会等について理解している	1	2	3	4

表2 保健・安全(一般教諭)スタンダード暫定版に対する回答傾向(%)

項目	まったくイメージ できない	あまりイメージでき ない	ややイメージできる	十分にイメージで きる	n数	合計
1.1 教師自身の心身の健康に留意し、衛生的な身だしなみや健康的な生活を心がけている。	1 (0.4)	24 (10.7)	133 (59.1)	67 (29.8)	225	(100.0)
1.2 全校の(児童)生徒の体・心・命を尊重し、公平な態度と丁寧な言動で指導・支援する。	0	0.0	18 (8.0)	132 (58.7)	75 (33.3)	225 (100.0)
1.3 親和的な態度で(児童)生徒のありのままを受けとめ、心身の状態を見極める。また、(児童)生徒の心理精神的・発達の・家庭的な背景を適切に判断する。	2 (0.9)	33 (14.7)	140 (62.2)	50 (22.2)	225	(100.0)
1.4 安心安全を象徴した明るく清潔で安全、機能的な教室づくりをめざし、色彩や配置に留意して教室を整備し、環境を整える。	1 (0.4)	56 (24.9)	129 (57.3)	39 (17.3)	225	(100.0)
1.5 災害・事件・事故等の緊急時を予想して、事前に準備し、ゆとりを持って日々の実践活動を行う。	2 (0.9)	66 (29.3)	116 (51.6)	41 (18.2)	225	(100.0)
1.6 共通の守秘義務を前提に、学級担任、学年・部活・生徒指導等の担当教員、養護教諭、スクールカウンセラー、管理職と情報を共有する。複数の目で検討して、適切な判断や支援・指導を行う。	3 (1.3)	48 (21.3)	116 (51.6)	58 (25.8)	225	(100.0)
1.7 個々の(児童)生徒や教職員、学級・学年、学校全体の健康安全の状況、学校教育目標、教育課程を把握して、情報を共有する。	2 (0.9)	50 (22.2)	149 (66.2)	24 (10.7)	225	(100.0)
2.1 学校保健計画を理解し、学校保健計画を実施している	10 (4.5)	128 (57.1)	74 (33.0)	12 (5.4)	224	(100.0)
2.2 学校安全計画を理解し、学校安全計画を実施している	8 (3.6)	105 (46.7)	100 (44.4)	12 (5.3)	225	(100.0)
3.1.1 救急体制を理解し、救急処置及び救急時の対応について適切に対応し、保健室につなげる。	2 (0.9)	59 (26.3)	120 (53.6)	43 (19.2)	224	(100.0)
3.1.2 健康診断について意義と内容を理解している	1 (0.4)	65 (28.9)	115 (51.1)	44 (19.6)	225	(100.0)
3.1.3 健康観察(欠席、遅刻、早退の把握を含む学習活動中の)を実施している	0	0.0	22 (9.9)	108 (48.4)	93 (41.7)	223 (100.0)
3.1.4 学校および学級等の保健情報、保健室利用状況等を把握し、活用している	4 (1.8)	71 (31.7)	130 (58.0)	19 (8.5)	224	(100.0)
3.1.5 感染症・食中毒を予防するとともに、発生時には適切に対応できるようにしている	7 (3.1)	101 (44.9)	97 (43.1)	20 (8.9)	225	(100.0)
3.1.6 疾病及び障がいのある(児童)生徒、経過観察を必要とする(児童)生徒の健康状況を把握している	3 (1.3)	51 (22.7)	123 (54.7)	48 (21.3)	225	(100.0)
3.2.1 学校環境衛生の日常的な点検(換気、採光調節等の教員が日常的に実施するもの)を実施している	2 (0.9)	48 (21.3)	119 (52.9)	56 (24.9)	225	(100.0)
3.2.2 学校環境衛生検査(定期検査、臨時検査)を理解している	7 (3.1)	88 (39.5)	104 (46.6)	24 (10.8)	223	(100.0)
3.2.3 施設設備の安全点検に参画するとともに、安全点検を実施している	4 (1.8)	85 (38.3)	105 (47.3)	28 (12.6)	222	(100.0)
4.1.1 グループ指導を含む個別指導を実施している	13 (5.8)	86 (38.2)	89 (39.6)	37 (16.4)	225	(100.0)
4.1.2 学級活動、学校行事、児童生徒会活動における保健指導を養護教諭と協同しながら実施している	5 (2.2)	68 (30.5)	123 (55.2)	27 (12.1)	223	(100.0)
4.2.1 保健学習を実践している(小)	3 (1.3)	39 (17.4)	110 (49.1)	72 (32.1)	224	(100.0)
4.2.2 「総合的な学習の時間」における保健学習に参画し、実践している	5 (2.2)	71 (31.6)	113 (50.2)	36 (16.0)	225	(100.0)
4.2.3 道徳の授業へ参画し、実践している	2 (0.9)	27 (12.1)	116 (52.0)	78 (35.0)	223	(100.0)
4.3 健康に関する児童生徒、教職員、保護者、地域住民及び関係機関等への啓発活動を理解し、協力している	3 (1.3)	85 (37.8)	116 (51.6)	21 (9.3)	225	(100.0)
5.1 児童・生徒の心身の健康に関する変化を早期発見し、声をかける、アドバイスする等の健康相談活動を実施したり、保健室と連携したりする	3 (1.3)	59 (26.2)	125 (55.6)	38 (16.9)	225	(100.0)
5.2 児童・生徒の心身の健康課題を早期発見し、早期対応している	4 (1.8)	81 (36.0)	114 (50.7)	26 (11.6)	225	(100.0)
5.3 心身の健康課題のある生徒に対して支援計画を作成し、養護教諭やスクールカウンセラーと連携しながら実施し、評価し、改善している	5 (2.2)	71 (31.6)	121 (53.8)	28 (12.4)	225	(100.0)
5.4 いじめ、虐待、事件事故・災害時等における心のケアを実施している	6 (2.7)	55 (24.4)	118 (52.4)	46 (20.4)	225	(100.0)
5.5 児童・生徒の支援にあたって教職員、保護者及び養護教諭をはじめとする校内組織、学校医をはじめとする校外組織と連携している	5 (2.2)	75 (33.3)	117 (52.0)	28 (12.4)	225	(100.0)
6 保健室の機能や役割を理解し、協力・活用する	1 (0.4)	34 (15.1)	132 (58.7)	58 (25.6)	225	(100.0)
7 教職員保健委員会、PTA保健委員会、児童・生徒保健委員会、学校保健委員会等について理解している	11 (4.9)	112 (49.8)	84 (37.8)	18 (8.0)	225	(100.0)

表3 バリマックス回転後の因子負荷量

項目	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5
5.1 児童・生徒の心身の健康に関する変化を早期発見し、声をかける、アドバイスする等の健康相談活動を実施したり、保健室と連携したりする	0.6756	0.0808	0.2307	0.0658	0.0701
5.2 児童・生徒の心身の健康課題を早期発見し、早期対応している	0.7220	0.0895	0.1542	0.1615	0.0930
5.3 心身の健康課題のある生徒に対して支援計画を作成し、養護教諭やスクールカウンセラーと連携しながら実施し、評価し、改善している	0.5518	0.1438	0.1012	0.0822	0.2224
5.4 いじめ、虐待、事件事故・災害時における心のケアを実施している	0.5367	0.0484	0.1422	-0.0274	0.2607
5.5 児童・生徒の支援にあたって教職員、保護者及び養護教諭をはじめとする校内組織、学校医をはじめとする校外組織と連携している	0.4532	0.1088	0.0653	0.1845	0.2665
2.1 学校保健計画を理解し、学校保健計画を実施している	0.0543	0.8299	0.1019	0.1434	0.0225
2.2 学校安全計画を理解し、学校安全計画を実施している	0.0705	0.8556	0.0133	0.0925	0.0708
4.2.1 保健学習を実践している (小)	0.2126	0.0788	0.6686	0.0455	0.1996
4.2.2 「総合的な学習の時間」における保健学習に参画し、実践している	0.1570	0.1051	0.7113	0.1992	0.0848
4.2.3 道徳の授業へ参画し、実践している	0.1541	0.0259	0.5652	0.0314	0.1391
3.2.1 学校環境衛生の日常的な点検 (換気、採光調節等の教員が日常的に実施するもの) を実施している	0.0266	0.1783	0.1938	0.5660	-0.0740
3.2.2 学校環境衛生検査 (定期検査、臨時検査) を理解している	0.0933	0.3004	0.0636	0.6468	0.2172
3.2.3 施設設備の安全点検に参画するとともに、安全点検を実施している	0.2342	0.2749	0.2089	0.5201	0.1075
7 教職員保健委員会、PTA保健委員会、児童・生徒保健委員会、学校保健委員会等について理解している	0.1522	0.0741	0.0795	0.4547	0.1836
4.1.1 グループ指導を含む個別指導を実施している	0.3157	0.1173	0.2344	0.1747	0.5855
4.1.2 学級活動、学校行事、児童生徒会活動における保健指導を養護教諭と協同しながら実施している	0.1992	0.1125	0.3240	0.1250	0.5812
1.1 教師自身の心身の健康に留意し、衛生的な身だしなみや健康的な生活を心がけている。	0.2377	-0.0696	0.1534	0.2757	-0.0503
1.2 全校の (児童) 生徒の体・心・命を尊重し、公平な態度と丁寧な言動で指導・支援する。	0.1682	-0.0279	0.1680	0.0408	0.0414
1.3 親和的な態度で (児童) 生徒のありのままを受けとめ、心身の状態を見極める。また、(児童) 生徒の心理精神的・発達の・家庭的な背景を適切に判断する。	0.3642	-0.0418	0.1588	-0.0245	-0.0093
1.4 安心安全を象徴した明るく清潔で安全、機能的な教室づくりをめざし、色彩や配置に留意して教室を整備し、環境を整える。	0.1736	0.1809	0.0989	0.0840	-0.0503
1.5 災害・事件・事故等の緊急時を予想して、事前に準備し、ゆとりを持って日々の実践活動を行う。	0.1697	0.2176	0.0582	0.0144	0.0146
1.6 共通の守秘義務を前提に、学級担任、学年・部活・生徒指導等の担当教員、養護教諭、スクールカウンセラー、管理職と情報を共有する。複数の目で検討して、適切な判断や支援・指導を行う。	0.3760	0.1183	0.1569	-0.0120	0.1080
1.7 個々の (児童) 生徒や教職員、学級・学年、学校全体の健康安全の状況、学校教育目標、教育課程を把握して、情報を共有する。	0.1606	0.2637	0.1619	0.0388	0.0226
3.1.1 救急体制を理解し、救急処置及び救急時の対応について適切に対応し、保健室につなげる。	0.2188	0.1628	0.1070	0.1379	0.1386
3.1.2 健康診断について意義と内容を理解している	0.1413	0.1503	0.0995	0.2057	0.0112
3.1.3 健康観察 (欠席、遅刻、早退の把握を含む学習活動中の) を実施している	0.1492	0.1068	0.2145	0.1719	0.0461
3.1.4 学校および学級等の保健情報、保健室利用状況等を把握し、活用している	0.2450	0.2433	0.2170	0.2071	0.0936
3.1.5 感染症・食中毒を予防するとともに、発生時には適切に対応できるようにしている	0.2935	0.1109	0.1387	0.2451	0.1032
3.1.6 疾病及び障がいのある (児童) 生徒、経過観察を必要とする (児童) 生徒の健康状況を把握している	0.3248	0.0886	0.1997	0.2103	0.1122
4.3 健康に関する児童生徒、教職員、保護者、地域住民及び関係機関等への啓発活動を理解し、協力している	0.2607	0.2912	0.0647	0.2024	0.1791
6 保健室の機能や役割を理解し、協力・活用する	0.3332	0.0509	0.2429	0.1048	0.1640
因子負荷量の2乗和	3.0682	2.116	2.0239	1.7832	1.1841
因子の寄与率 (%)	9.8973	6.8257	6.5288	5.7522	3.8196
累積寄与率 (%)	9.8973	16.723	23.2518	29.004	32.8236

Ⅳ 総合考察

児童・生徒の生活習慣の乱れ、心の健康、アレルギー疾患、性、薬物乱用、感染症などのさまざまな健康課題、犯罪や事故、自然災害などの安全課題が社会的な課題として存在する。それに対して、健康で安全な学校を構築するためには、学校保健計画および学校安全計画を作成し、教職員全体の参画によってその目的を達成する必要がある。この学校保健計画および学校安全計画は、安全担当、保健主事と養護教諭などの専門職が中心となって計画原案を作成するとともに、保健・安全部会でのディスカッションを経て作成し、実施にあたってはすべての教職員がその実施に関わる必要がある。さらには、児童・生徒の健康を保持増進するためには、学校や学校を取り巻く環境が健康的で安全な環境であるとともに、学校に関わる教職員をはじめ保護者や地域住民が健康や安全について関心を持つ環境である必要がある。本研究ではその足がかりとして「養護教諭」及び「一般教諭」の保健・安全にかかわる要因について焦点化し、それぞれの役割に求められる素養を検討することを目的とした。

今回、保健体育および養護教諭の免許状を取得する以外の小学校および中学校、高等学校の免許状を取得する教員を想定しながら、彼らに対して求められる素養について検討し、養護教諭に求められる素養と対を成すように、基本的な素養として7項目、安全および保健に関する24項目で構成される保健・安全（一般教諭）スタンダードの作成を試みた。このスタンダードは、今回作成された項目で確定・固定されるスタンダードではなく、時代の変化や実践者の振り返りにより、スタンダード自身が精査・洗練されていく性質を持たせる必要があり、決して、教員の評価に使用されたり、教員を枠にはめたりする足かせとなてはならない。すなわち、このスタンダードの項目を手がかりに、職場で健康や安全について話し合うきっかけとしたり、自らの実践の振り返りの手だてとなったりするようなコミュニケーション・ツールとなるように意図して作成している。

その様な観点から教員を目指して教員養成系学部に入学者が、保健および安全に関する項目に対して、どの程度イメージでき4年間の学習を見通せるかという観点で調査を実施した。なお、この対象集団は、別途調査において同時期に90%以上が教職を志望していると明らかにされており、教員へのモチベーションが高い集団であると推測できた。

これらの項目に対して、「十分にイメージできる」項目は、健康観察、道徳への授業参加、全校児童生徒の生命尊重、保健学習、教師自身の健康への配慮であり、児童・生徒としての立場でも経験があるような項目はイメージしやすいと考えられた。その一方で、「まったくイメージできない」に対する回答割合の高い項目は、グループ指導を含む個別指導、児童・生徒保健委員会等、学校保健計画、学校安全計画、感染症・食中毒予防、学校環境衛生検査などの項目であり、児童・生徒としての経験のない項目、すなわち、教員の立場として改めて学習しなければイメージできない項目であると考えられる。特に、児童・生徒保健委員会は、児童・生徒を健康や安全の担い手へと育てる絶好の機会であったり²⁹⁾、学校保健委員会との架け橋であったりする観点³⁰⁾からも教員養成段階において教員になる可能性のある学生の理解を深めたい視点でもある。また、因子分析から、第1因子：児童・生徒の心身の課題発見と対処に関する因子と第3因子：授業に関する因子は、比較的理解しやすく、第2因子：学校保健・安全計画に関する因子、第4因子：学校環境衛生に関する因子、第5因子：保健指導に関する因子に分かれたが、概念としてのまとまりが形成されていない様子がうかがえた。

しかし、現段階の教職免許法において、健康および安全に関して学ぶ科目は規定されておらず、現状では、教育実習などの実践的な場面で学ぶ、あるいは教員として採用された後に、現場教育のなかで実践的に学ぶしかない。理論と実践の往還によって、教員としての学びを深めてゆく過程が、教員養成系での学びであると仮定すれば、ひとつの核である大学での学びが体系化されていないとも言える。学生はこれまで養護教諭を中心とした教職員に健康と安全を見守られて来た経験を持っているのだが、それは児童生徒の立場からは意識化、前景化することのない事柄であった。児童・生徒にとっては当たり前、無意識であつ

た健康と安全への配慮の重要性を、ひるがえって教員の立場から理解できるような機会を準備する必要がある。今後は、教員養成課程のなかで健康や安全について、どのような場面で学べるか、どのように学習を動機づけるか、について検討する必要があると考える。

これに関しては、教育実地研究（教育実習関係科目）での保健室訪問や教職入門（教職の意義に関する科目）における講義など、現行カリキュラムにおいて保健や安全について学習できる機会を附属養護部会や関係者との協働作業によって構築したい。

V 結 論

本研究では、一般教諭に求められる保健および安全に関する素養についてスタンダードを作成するとともに、教員養成系大学の学生に対する調査を通して、教員養成系大学における保健および安全に関する学びについて検討した。

養護教諭スタンダードを元に保健・安全に関連する基本的な素養7項目、学校保健計画及び学校安全計画2項目、保健管理・心身の健康管理6項目、保健管理・学校環境の管理3項目、保健指導2項目、保健学習3項目、啓発活動1項目、健康相談6項目、保健室の理解1項目、保健組織活動の理解1項目で構成される保健・安全スタンダード（一般教諭）を作成した。

また、学生に対する調査結果からは、健康観察、保健学習を含む授業実施、全校児童生徒の生命尊重、教師自身の健康への配慮などは理解しやすく、グループ指導を含む個別指導、教職員保健委員会や児童・生徒保健委員会等、学校保健計画、学校安全計画、感染症・食中毒予防、学校環境衛生検査などの項目については理解しがたい傾向にあると考えられた。

以上の様な視点から教員養成系における保健および安全に関してどのような場面で学べるか、どのように動機づけるかについて検討する必要があると考えられた。

引用・参考文献

1. 文部科学省『保健主事のための実務ハンドブック』, 2010.
2. 文部科学省『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』, 2010.
3. 徳山美智子他編著：学校保健－ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化－東山書房, 56-58, 2008.
4. 森下覚他：教師による実践的指導力の自己評定に関する調査, 教育実践総合センター紀要, 30, 127-138, 2013.
5. 小柳和喜雄：教師の資質能力としてのディスポジションに関する研究, 日本教育工学会研究報告集, 2009 (3), 41-48, 2009.
6. 大越篤：生徒指導に関する資質・力量と管理職による教師支援, 早稲田大学大学院教職研究科紀要, 2, 83-92, 2010.
7. 茨城県日立市教育委員会：道徳教育推進のための教師の資質向上にかかわる工夫, 初等教育資料, 851, 26-31, 2009.
8. 佐藤 学：数学教育における教師の職能成長に関する研究：実践的指導力の形成に向けた実践的プログラムの開発とその可能性, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 (35), 41-53, 2013.
9. 木下 博義：理科の観察・実験における小学校教師の考察指導に関する研究, 日本教育工学会論文誌, 36 (4), 439-449, 2013.
10. 杉田 直樹他：仮説の提示と吟味の方法の工夫による小学校社会科授業改善, 岡山大学教師教育開発センター紀要, 3, 107-116, 2013.
11. 大平 彩加他：教育方法・教育内容からみた家庭科教師の住教育力：住まい・まち・環境教育における

- 教師の住教育力に関する研究 (1), 日本建築学会北海道支部研究報告集, 85, 547-550, 2012.
12. 金城 久美子他: 小学校家庭科における授業実践力の育成に関する研究: 「題材構成ワークシート」の提案, 大阪教育大学紀要第5部門, 60 (2), 65-74, 2012.
 13. 久保元芳、穴沢幸平: 保健体育科教師の養成段階にある学生の保健知識と保健学習への意欲, 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 35, 213-221, 2012.
 14. 高橋洋、大越教夫: 学習指導要領とその解説および保健・保健体育教科書における排卵と基礎体温に関する記載, 弘前大学教育学部紀要, 107, 113-122, 2012.
 15. 江頭真生子: 沖縄県における中学校・高等学校の「保健分野」授業の実施状況及び教員の意識について, 琉球大学教育学部紀要, 80, 83-93, 2012.
 16. 奥儀幸朝他: 中学校保健体育科における授業力尺度作成の試み, 琉球大学教育学部紀要, 79, 279-289, 2011.
 17. 嘉数健悟: 教員養成段階における保健体育教師志望学生の保健授業イメージに関する事例的研究, 学校保健研究, 53 (1), 68-74, 2011.
 18. 岡田加奈子他: ヘルス・プロモーティング・スクールを推進する教員研修と評価: 2010年度に実施した基礎研修と総合研修を対象に, 千葉大学教育学部研究紀要 60, 321-327, 2012.
 19. 西羅憲作他: 小学校教員の地震防災教育に対する内発的動機づけと地震防災教材の活用可能性に関する研究, 地域安全学会論文集, 15, 415-425, 2011.
 20. 学校保健学会: 中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」に対する意見提出について (報告), 日本学校保健学会, 54 (5), 459-462, 2012.
 21. 萩野和美他: 養護教諭の力量形成に関する研究 (その1), 大阪教育大学紀要第IV部門, 50 (2), 459-471, 2002.
 22. 森紀子他: 養護教諭の職務内容と研修の在り方に関する一考察—福島県の養護教諭に対するアンケート調査を踏まえて—, 福島大学総合教育研究センター紀要, 7, (7), 51-58, 2009.
 23. 面澤和子: 中学・高校教諭免許 (保健) と養護教諭—健康に関する教育の専門性と専門職養成, 学校保健研究 51 (6), 371-375, 2010.
 24. 大谷尚子: 養護教諭の今日的課題 養護教諭に求められる資質・能力—養護教諭養成にかかわる課題から, 保健の科学, 48 (10), 761-764, 2006.
 25. 鎌田尚子: 専門職として養護教諭の資質・力量と能力特性及び大学院教育, 学校保健研究 51 (6), 390-394, 2010.
 26. 学校保健安全法, 2008.
 27. 采女智津江編 『新養護概説』, 少年写真新聞社, 2009.
 28. 石川県養護教育研究会 編, 植田誠治・河田史宝監 『新版・養護教諭執務のてびき 第8版』, 東山書房, 2009.
 29. 藤田和也 『養護教諭が担う「教育」とは何か—実践の考え方と進め方』 農山漁村文化協会, 2008.
 30. 中村千景他: 中学校における生徒保健委員会が推進するメンタルヘルスの実践活動—学校保健委員会と生徒保健委員会との協働, 学校保健研究, 52 (3), 227-235, 2010.
 31. 久保昌子: 養成課程による養護教諭の職務意識の差違, 学校保健研究, 54 (5), 430-439, 2012.
 32. 斉藤ふくみ他: 養護教諭養成モデル・コア・カリキュラムに関する研究—「養護に関する科目」における科目区分の検討—, 学校保健研究, 55 (3), 228-243, 2013.
 33. 安林奈緒美: 保健と教育が交錯する場における養護教諭の役割, 保健医療社会学論集, 23 (1), 74-84, 2012.